

我が国企業による
国際的な気候変動イニシアティブへの対応に関する研究会（第3回）
議事要旨

日時：平成31年3月12日（火曜日） 13時30分～15時00分
場所：経済産業省別館3階312会議室

出席者

山地委員（座長）、工藤委員、馬場委員、藤野委員、吉高委員

議題

1. 海外動向調査結果（欧州・米国出張報告）について
2. ガイダンス案について

議事概要

【議題1について】

- みずほ情報総研株式会社より、資料2に基づいて説明を行い、資料の内容について質疑を実施し、再エネ電力調達に係る海外動向の理解を深めた。

【議題2について】

- 資料3に基づいて事務局より説明を行い、ガイダンスの内容や書きぶりについて、ご意見をいただいた。委員の主なご意見は以下の通り
 - ガイダンスのサブタイトルは、再エネにガイダンスの主眼を置くこと、国内で活動する海外企業も対象とすることが伝わるようなものとしてはどうか。
 - サプライチェーンに影響力のある企業が、中小企業などのサプライヤーに再エネ調達を依頼する際の使いやすさも考慮することが、本ガイダンスの活用を考える上で有効ではないか。
 - GHG プロトコルの各種基準のうち **Scope2** ガイダンスに焦点を当てている理由、その中で証書等を中心に取り上げる理由などを追記するなどガイダンスの各要素のつながりを意識して内容をブラッシュアップして頂きたい。
 - ガイダンス 1.2 に本ガイダンス策定の目的は国際的なルールに基づく再エネ価値の主張にあると記されているが、後半では国内制度についても丁寧に説明されているので、本ガイダンスが国内ルールに詳しくない読み手にも有益であることにも言及してはどうか。

- ガイダンス 2.2 (3)には、ガイダンス原文を訳しているためやや理解し辛い文言があるので、括弧書きなどで補足してはどうか。
- ガイダンス 3.3 (2)では、送電端、使用端の排出係数がどちらも算定に使用できることが述べられているが、背景情報（送電線は Scope3 のバウンダリに含まれること）等を知らないと理解が難しいので、簡単に補足してはどうか。
- ガイダンス 4.2において、“～等”という書きぶりが多く見受けられるので、需要家の混乱を招かないよう丁寧に説明してはどうか。
- これから再エネ調達に取り組む需要家にとってなじみのない用語がガイダンス中に多く登場するので、用語集の拡充や用語集を冒頭に配置するなど検討していただきたい。また、用語の統一性も高めていただきたい（“系統”と“グリッド”など）。

【今後の進め方について】

- 資料4に基づいて事務局より説明を行い、今後の進め方について、ご意見をいただいた。委員の主なご意見は以下の通り
 - 問い合わせ対応の窓口設置は必要である。
 - 本ガイダンスのホームページ掲載に当たっては、関連施策とリンクさせる等により見つけ易いように欲しい。

今後の予定

ガイダンスは、これまでの研究会で出されたご意見等を踏まえて修文し、3月末までに経済産業省ホームページに掲載する。

以上

お問合せ先

産業技術環境局 環境経済室

電話 03-3501-1770

FAX 03-3501-7697